

課題名：見守りシステムを通じた業務効率化や介護の質の向上に関する研究開発

代表機関／代表者：アビームコンサルティング株式会社／石間 正俊

研究期間：令和7年8月～令和8年3月

研究開発目的

急速に進行する高齢化社会において、在宅介護現場の見守り支援を高度化し、利用者の安全確保と介護者の負担軽減、業務の効率化を実現することが求められている。一方で介護現場では、介護人材や施設の不足、介護者の負担増加、緊急時対応の遅れ等が課題となっている。本研究では、AI搭載の見守りシステムを中心とした介護DXパッケージモデルを開発し、訪問介護事業所に導入する。見守りシステムでは異常行動の自動検知やリアルタイム通知による迅速な対応の実現、アシストスーツやシェア型電動アシストサイクルでは職員の身体的負担軽減を目指す。また、これらのパッケージモデルにおけるプライバシー保護と見守り機能の両立、導入コストや運用面での実現性を検証する。また都市部と地方という異なる地域特性を持つ現場で実証を行い、全国展開可能なモデルの確立を目指す。

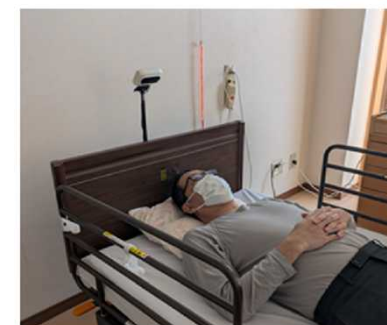
取り組み

- 都市部と地方の2エリアで、見守りシステム、アシストスーツ等を組み合わせた介護DXパッケージを導入し、実証実験を行う
- 現状業務や課題の可視化、機器導入後の効果検証（緊急訪問回数、満足度、身体的負担、移動コスト等）を実施する
- 介護職員への研修やフォローアップを通じて、機器の定着と現場での活用を支援する。定量・定性評価（アンケート、インタビュー等）を組み合わせ、導入効果を多面的に検証する
- 導入コストと人件費削減効果を算出し、経済性・継続性も評価する

期待される成果

- 緊急訪問の減少：異常検知による早期対応で訪問回数を削減
- 在宅生活の意欲向上：利用者・家族の安心感を高め、在宅継続を支援
- 導入コストの合理化：人件費や移動コストの削減により、経済的な介護モデルを実現

見守りシステム



C-aid

センサをベッドの上部に設置することで心拍数・呼吸数、ベッド上の状況をモニタリング可能

【画像出所】スキノハイテック社HP製品紹介より

職員の負担軽減



サポートジャケット

身体の負担を軽減する
非電動アシストスーツ

【画像出所】ヴァーゴウェーブ社HP製品紹介



※イメージ画像

シェア型の電動アシスト
サイクル